

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 8 年 1 月調査結果 - -

( 平成 1 8 年 2 月 1 日 )

調査期間：平成 1 8 年 1 月 1 9 日 ~ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 4 商工会議所が 2 5 8 5 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 8 製造業 6 2 4 卸売業 2 3 2  
小売業 7 4 1 サービス業 6 1 0

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題など

## D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 業況D Iのマイナス幅は、4カ月ぶりに再び拡大

1月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（25.1）よりマイナス幅が1.8ポイント拡大して26.9となり、4カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

業種別の業況D Iは、製造でマイナス幅が縮小したものの、他の4業種で拡大したため、全産業合計の業況D Iのマイナス幅も拡大した。業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声の一方、依然として公共事業の縮小、原油・素材価格の高騰、大雪の影響等による景況の停滞感、客数の減少や客単価の下落など消費の低迷、先行き不安を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「民間工事は好調を保っており、設備投資も一部で動き出すなど民間活力への期待感が高まっている」（一般工事）との声がある一方、「地方都市における公共工事の発注は激減しており、先行きが全く見通せない状況が続いている」（一般工事）との声のほか、「耐震構造計画書偽造問題」や原油価格高騰により、設備投資に悪影響が及ぶことを懸念している」（管工事）と、原油高による影響を訴える声も寄せられている。

【製造業】では、「企業間格差も見受けられるが、全体的に受注は好調を維持している」（自動車・附属品製造）との声がある一方、「国内需要の低迷と海外からの安価な輸入家具の流入により、依然として厳しい状況が続いている」（家具製造）といった声や、「依然として原材料の高騰が続いており、採算面での影響が大きくなっている」（金物類製造）と、引き続き原材料の仕入コスト上昇の影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「衣料品は消費低迷と販売単価の下落で、売上は低迷したまま推移している」（各種商品卸売）「小売業界での不振を受け、一部の有力企業を除いた大半の企業は依然として苦戦を強いられている」（衣服・日用品卸売）との声のほか、「発泡スチロールなど原油関係資材の値上がりの影響を受けており、従業員の新規採用は困難」（農畜産水産物卸売）と、原油高による影響を訴える声も寄せられている。

【小売業】では、「個人消費がやや増加基調に転じており、正月から1月中旬までの売上は上向き傾向にある」（百貨店）との声がある一方、「来店者数は変わらないが、客単価が低いために売上は伸びない」（百貨店）との声のほか、「豪雪で商店街に人が来ず売上が激減しているのに加え、除雪費用の増加で採算が悪化している」（商店街）と、大雪による影響を訴える声も寄せられている。

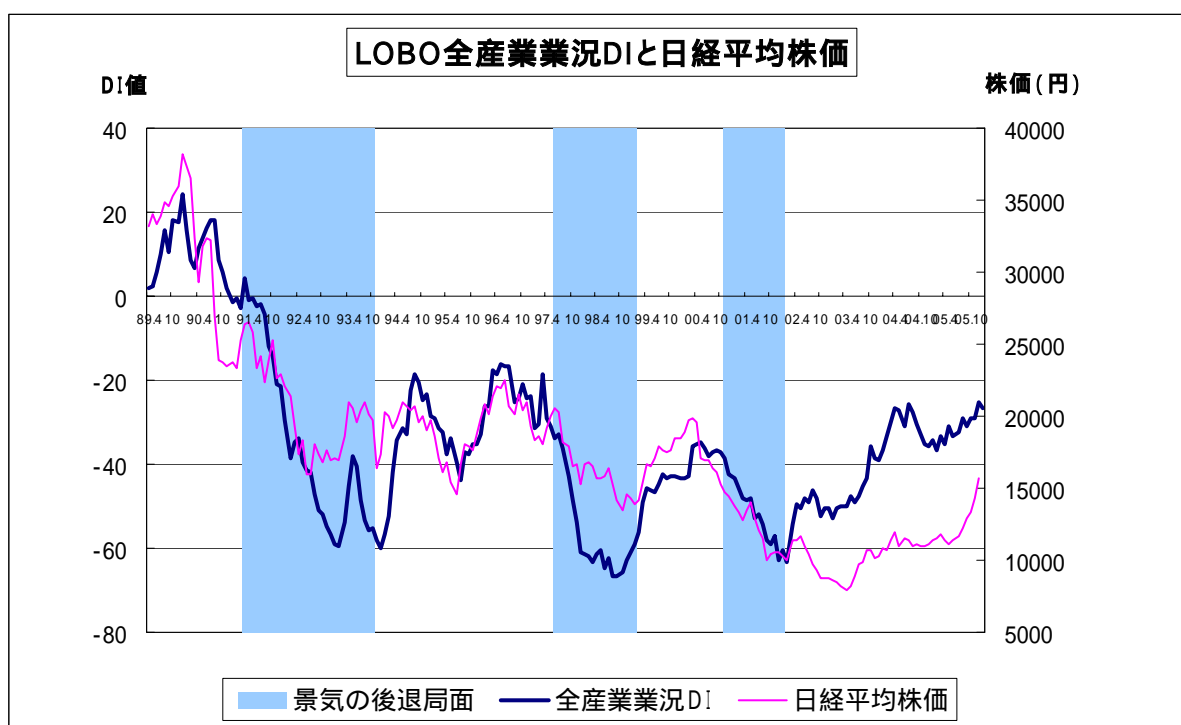
【サービス業】では、「1月は好調で推移し、仕入コスト上昇による影響も吸収して採算が好転した」（食堂、レストラン）との声がある一方、「中小・零細企業は景気の好転を感じることができず、特に理容業界は深刻」（理容）「積雪量が多くキャンセルが続出しており、今冬の大雪は業況のマイナス要因となっている」（旅館）といったコメントが寄せられている。また、「稼働率が低下傾向にあるのに加え、原油価格高騰により燃料費がかさみ、大変厳しい状況が続いている」（旅館）と、原油高の影響を訴える声も聞かれる。

売上面では、D I 値のマイナス幅は卸売で縮小したものの、他の 4 業種で拡大したため、全産業合計の売上 D I は 3 . 5 ポイント拡大して 2 2 . 4 となり、3 カ月ぶりに拡大した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は製造で縮小したものの、他の 4 業種で拡大したため、全産業合計の採算 D I は 2 . 0 ポイント拡大して 2 8 . 5 となり、3 カ月ぶりに拡大した。

向こう 3 カ月( 2 月 ~ 4 月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I ( 今月比ベース) が 2 1 . 3 と、昨年同時期の先行き見通し( 3 3 . 1 ) に比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声の一方、依然として公共事業の縮小、原油・素材価格の高騰、大雪の影響等による景況の停滞感、客数の減少や客単価の下落など消費の低迷、先行き不安を訴えるコメントが多く見られた。



【業況についての判断】

1月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 25.1 ）よりマイナス幅が1.8ポイント拡大して 26.9 となり、4カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

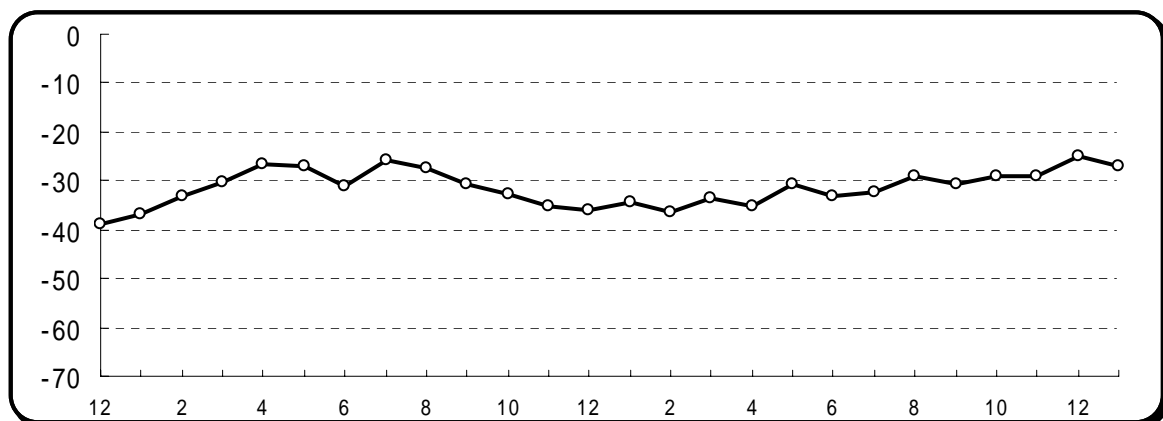
向こう3カ月（2月～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 21.3 と、昨年同時期の先行き見通し（ 33.1 ）に比べて改善している。

業況D I（前年同月比）の推移

	17年 8月	9月	10月	11月	12月	18年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	28.9	30.8	29.2	29.0	25.1	26.9	21.3 ( 33.1)
建設	37.9	41.0	37.6	37.5	38.1	38.3	31.1 ( 46.9)
製造	18.5	21.2	18.0	19.5	14.9	12.2	9.5 ( 24.6)
卸売	35.3	29.3	41.5	32.5	31.9	38.4	25.5 ( 28.3)
小売	31.2	33.7	32.6	28.0	23.2	25.2	20.6 ( 35.9)
サービス	29.0	31.3	26.7	33.3	27.1	32.9	26.6 ( 31.8)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年1月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

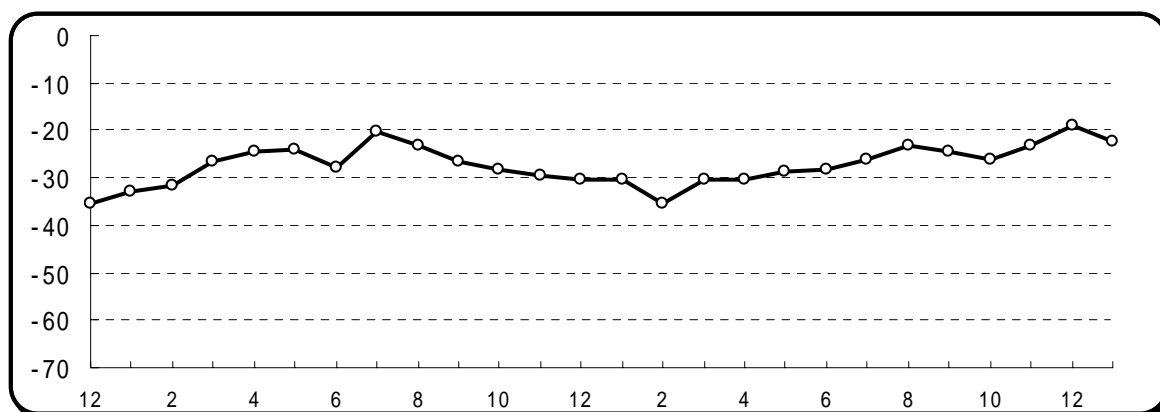
売上面では、D I 値のマイナス幅は卸売で縮小したものの、他の4業種で拡大したため、全産業合計の売上D I は3.5ポイント拡大して 22.4 となり、3カ月ぶりに拡大した。

向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 17.5 と、昨年同時期の先行き見通し( 28.5 )に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	17年 8月	9月	10月	11月	12月	18年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	23.4	24.6	26.3	23.1	18.9	22.4	17.5 ( 28.5)
建設	32.2	32.5	34.3	29.2	30.8	34.6	32.2 ( 42.0)
製造	9.3	6.7	5.8	11.8	1.6	3.4	4.5 ( 16.8)
卸売	37.1	32.5	40.9	35.1	33.7	32.1	17.8 ( 26.5)
小売	26.9	30.3	35.4	25.2	17.7	24.7	18.9 ( 31.7)
サービス	23.5	28.2	26.4	24.5	25.2	28.3	20.1 ( 29.1)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

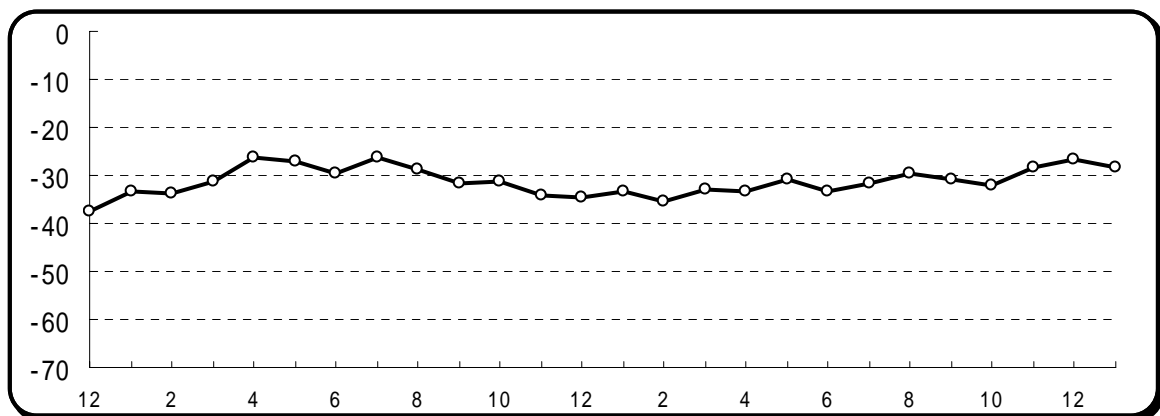
採算面では、D I 値のマイナス幅は製造で縮小したものの、他の4業種では拡大したため、全産業合計の採算D Iは2.0ポイント拡大して 28.5となり、3カ月ぶりに拡大した。

向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が 20.4と、昨年同時期の先行き見通し( 30.3 )に比べて改善している。

採算D I (前年同月比) の推移

	17年 8月	9月	10月	11月	12月	18年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	29.5	30.8	32.1	28.5	26.5	28.5	20.4 ( 30.3)
建設	42.8	42.6	43.1	41.9	43.1	45.4	34.1 ( 45.7)
製造	24.6	23.5	21.6	24.1	18.9	17.8	15.2 ( 26.3)
卸売	30.6	33.1	41.5	27.9	27.6	31.4	14.0 ( 21.7)
小売	25.7	29.8	33.3	22.5	22.8	23.3	18.3 ( 27.7)
サービス	30.7	31.3	31.3	31.6	27.9	34.0	22.3 ( 31.3)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	17年 8月	9月	10月	11月	12月	18年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	19.2	19.6	19.0	17.3	18.6	18.8	17.1 ( 22.6)
建設	31.2	30.8	29.8	27.6	31.3	31.3	28.8 ( 37.6)
製造	17.7	17.5	15.5	15.1	13.9	13.0	13.9 ( 18.7)
卸売	13.3	17.7	20.9	12.3	17.7	13.5	11.4 ( 13.6)
小売	14.5	16.2	16.6	14.8	15.1	15.4	13.9 ( 19.9)
サービス	20.1	18.3	17.2	17.5	19.1	22.8	19.0 ( 23.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】製造、卸売で悪化超感が弱まったものの、建設で横ばい、他の2業種で強まり、全産業合計でも2カ月連続で若干強まる。

【先行き見通しD I】全業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	17年 8月	9月	10月	11月	12月	18年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	17.2	19.5	19.0	17.7	18.5	21.8	17.8 ( 15.2)
建設	23.3	28.4	31.0	30.6	24.0	29.1	23.5 ( 24.8)
製造	33.5	35.0	36.3	34.6	35.7	32.3	26.3 ( 29.0)
卸売	12.9	14.7	13.2	1.3	8.0	18.2	15.9 ( 15.1)
小売	4.8	8.4	4.9	5.1	6.5	10.7	9.2 ( 3.4)
サービス	12.6	12.2	12.2	12.4	15.2	21.0	16.3 ( 7.7)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造で上昇超感が弱まったものの、他の4業種で強まったため、全産業合計でも2カ月連続で強まる。

【先行き見通しD I】建設、製造で上昇超感が弱まったものの、他の3業種で強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I ( 前年同月比 ) の推移

	17年 8月	9月	10月	11月	12月	18年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	3.7	3.8	3.8	1.8	1.6	0.7	2.0 ( 7.8)
建設	18.6	17.4	19.0	16.9	14.7	17.9	11.4 ( 19.0)
製造	5.8	5.1	4.5	3.4	0.5	2.7	8.4 ( 9.9)
卸売	3.6	3.8	5.7	4.5	4.3	3.1	5.9 ( 12.1)
小売	3.0	3.5	2.8	6.5	1.5	7.4	5.1 ( 2.0)
サービス	0.2	2.1	0.2	1.2	3.2	3.8	3.6 ( 2.9)

D I = ( 不足の回答割合 ) - ( 過剰の回答割合 )

【前年同月比 D I】建設、製造で過剰超感が強まったものの、小売、サービスで不足超感が強まり、卸売で過剰超感が弱まったため、全産業合計でも3カ月連続で過剰超感が弱まった。

【先行き見通し D I】小売、サービスで不足超感に転じ、他の3業種でも過剰超感が弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。



## 【平成18年1月の景気キーワード】

### 回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている。「今冬の大雪により、除雪作業の受託が増加した」(大野・土木工事)、「業況は少しずつ上向いており、今後は輸出用製品の受注拡大に期待している」(伊那・電子部品製造)、「海外市場向け製品の受注が回復し始めており、今後3カ月の売上は増加する見込み」(大阪・繊維機械製造)との声のほか、「来店者数が増加し、衣料品を中心に売上が伸びている」(福島・百貨店)と消費回復への動きを指摘する声も寄せられている。また、「年始は人出が多く、初売り・福袋ともに昨年と比較して売上は増加した」(静岡・商店街)、「新年会などの来店者数は昨年と比較して多少増えてきている」(榎原・旅館)と年始の売上が好調との声や、「業況は徐々に好転しており、従業員の採用を検討したい」(西条・自動車整備)とのコメントも寄せられている。

### 悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声も寄せられている。建設、製造からは、「北海道の建設業界は公共事業の減少と民間需要の低迷で相変わらず厳しい業況が続いている」(札幌・一般工事)、「大雪による来店者数の減少に伴い売上も減少し、灯油や包装資材の仕入コスト上昇も重なり採算が悪化している」(秋田・パン・菓子製造)、「製材木製品の価格低迷が続いており、上昇する気配は感じられない」(水俣・製材木製品製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「売上は増加傾向にあるが、収益が伸びず資金繰り等経営環境が厳しい状況に変化はない」(前橋・衣服・日用品卸売)、「今年の冬は例年に無いほど売上が減少した」(高砂・商店街)、「新年会の予約が非常に少なく、野菜などの仕入コストも上昇している」(福山・食堂・レストラン)と、厳しい業況を訴えるコメントが寄せられている。

### 仕入コスト上昇

また、引き続き原油・素材価格の高騰等による仕入コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「原油価格高騰が冬場の工事に大きな影響を及ぼしている」(帯広・一般工事)、「菓子の原材料である砂糖の値上げが実施されたが、消費者離れが懸念されるために価格転嫁はできない」(一宮・パン・菓子製造)、「灯油価格が急騰しており、特に市内の鍛造業者が大きな影響を受けている」(直方・鉄素形材製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも「原油価格の高騰により、ハウス栽培の野菜の仕入価格が高騰している」(浦安・農畜産水産物卸売)といった声や、「大雪と灯油価格高騰により仕入コストが上昇している」(米沢・旅館)、「灯油の価格上昇が今後も続くのかどうか不安材料」(ひたちなか・その他小売)と、灯油価格高騰による影響を訴えるコメントも寄せられている。

### 【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
17年 11月	悪化への懸念	回復への動き	仕入・輸送コスト上昇
12月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
18年 1月	回復への動き	悪化への懸念	仕入コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D Iともに2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「民間工事は好調を保っており、設備投資も一部で動き出すなど民間活力への期待感が高まっている」(一般工事)との声がある一方、「利幅がほとんどないため、忙しい割には採算が好転しない」(建築工事)、「耐震構造計画書偽造問題」や原油価格高騰により、設備投資に悪影響が及ぶことを懸念している」(管工事)「地方都市における公共工事の発注は激減しており、先行きが全く見通せない状況が続いている」(一般工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況・採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月ぶりに拡大した。「企業間格差も見受けられるが、全体的に受注は好調を維持している」(自動車・附属品製造)「収益は厳しい状況が続いているものの、一定の受注量を確保し安定した操業を続けている」(一般産業用機械製造)との声がある一方、「国内需要の低迷と海外からの安価な輸入家具の流入により、依然として厳しい状況が続いている」(家具製造)、「依然として原材料の高騰が続いており、採算面での影響が大きくなっている」(金物類製造)「円安により原材料の輸入単価が上昇して採算が悪化している」(製材木製品製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上D Iは3カ月連続で縮小した。「衣料品は消費低迷と販売単価の下落で、売上は低迷したまま推移している」(各種商品卸売)「小売業界での不振を受け、一部の有力企業を除いた大半の企業は依然として苦戦を強いられている」(衣服・日用品卸売)との声のほか、「発泡スチロールなど原油関係資材の値上がりの影響を受けており、従業員の新規採用は困難」(農畜産水産物卸売)「原油価格高騰による燃料費上昇の影響を受け、今後、仕入単価が値上げされる可能性が出てきた」(家具・建具等卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは4カ月ぶり、売上D Iは3カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「個人消費がやや増加基調に転じており、正月から1月中旬までの売上は上向き傾向にある」(百貨店)「昨年12月上旬から来店客数、売上高ともに増加傾向にある」(商店街)との声がある一方、「年末年始も活況に沸く気配もなく、ほとんどの商店で売上は昨年よりも減少した模様で、来店者数も減少している」(商店街)「豪雪で商店街に人が来ず売上が激減しているのに加え、除雪費用の増加で採算が悪化している」(商店街)「来店者数は変わらないが、客単価が低いために売上は伸びない」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況・採算D Iは2カ月ぶり、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「売上が上昇し、わずかながら先行きに期待が持てるようになってきた」(他の一般飲食店)、「1月は好調で推移し、仕入コスト上昇による影響も吸収して採算が好転した」(食堂、レストラン)との声がある一方、「中小・零細企業は景気の好転を感じることができず、特に理容業界は深刻」(理容)「積雪量が多くキャンセルが続出しており、今冬の大雪は業況のマイナス要因となっている」(旅館)との声のほか、「一時は安定していた軽油価格が再び高騰し始め、運賃への転嫁が不可能な状況が続いている」(その他サービス)「稼働率が低下傾向にあるのに加え、原油価格高騰により燃料費がかさみ、大変厳しい状況が続いている」(旅館)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、関東、東海、九州でマイナス幅が縮小したが、他の5ブロックで拡大したため、全ブロック合計でも4カ月ぶりに拡大した。

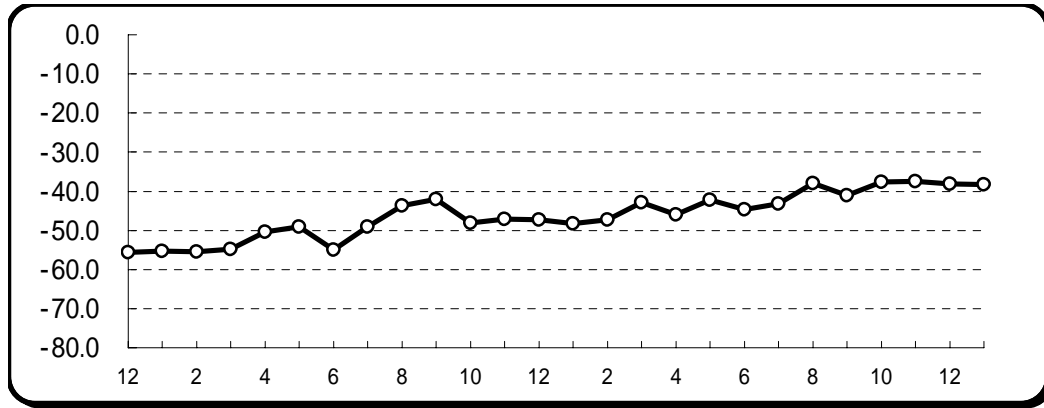
ブロック別の向こう3カ月(2月~4月)の業況の先行き見通しは、全てのブロックで昨年同時期と比べて改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

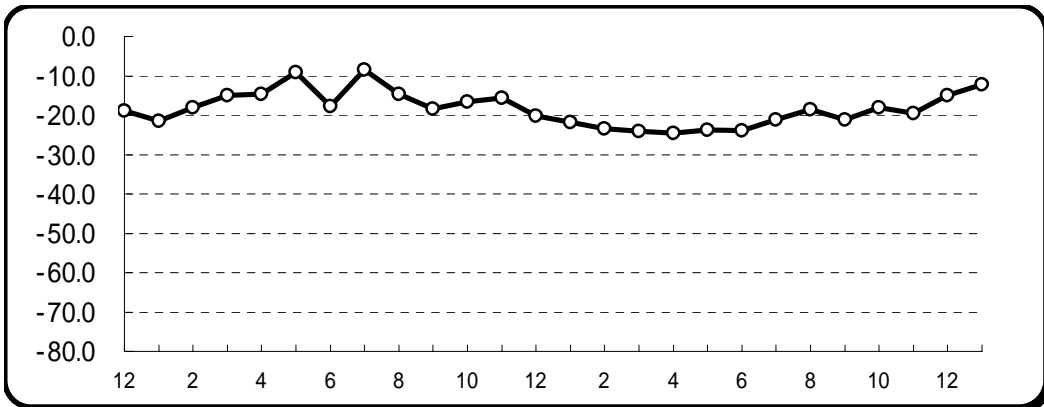
	17年 8月	9月	10月	11月	12月	18年 1月	先行き見通し 2~4月
全 国	28.9	30.8	29.2	29.0	25.1	26.9	21.3 ( 33.1)
北海道	32.3	36.0	39.3	30.0	34.9	25.9	25.9 ( 35.7)
東 北	30.7	30.9	25.0	28.9	26.4	34.2	34.0 ( 46.5)
北陸信越	26.2	24.1	23.6	23.7	19.0	33.3	22.6 ( 34.1)
関 東	29.0	28.5	27.3	26.0	21.9	19.2	15.5 ( 25.2)
東 海	23.8	27.8	25.4	29.5	17.9	14.9	11.1 ( 32.8)
近 畿	31.7	28.9	31.2	32.4	24.7	34.5	25.0 ( 36.2)
中 国	29.2	37.2	32.9	26.6	31.8	32.6	27.3 ( 35.8)
四 国	33.8	40.1	30.2	34.1	35.2	35.4	26.4 ( 31.0)
九 州	24.4	32.8	33.3	32.8	26.5	25.0	16.8 ( 32.6)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

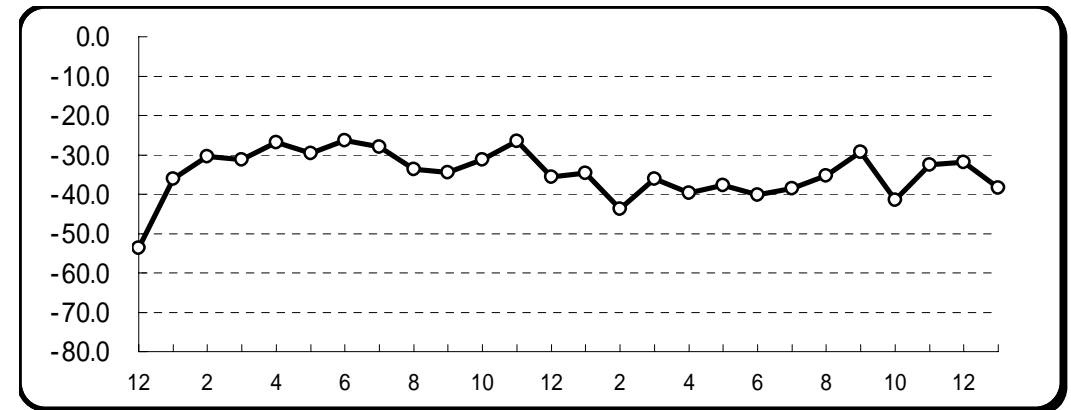
## 建設業



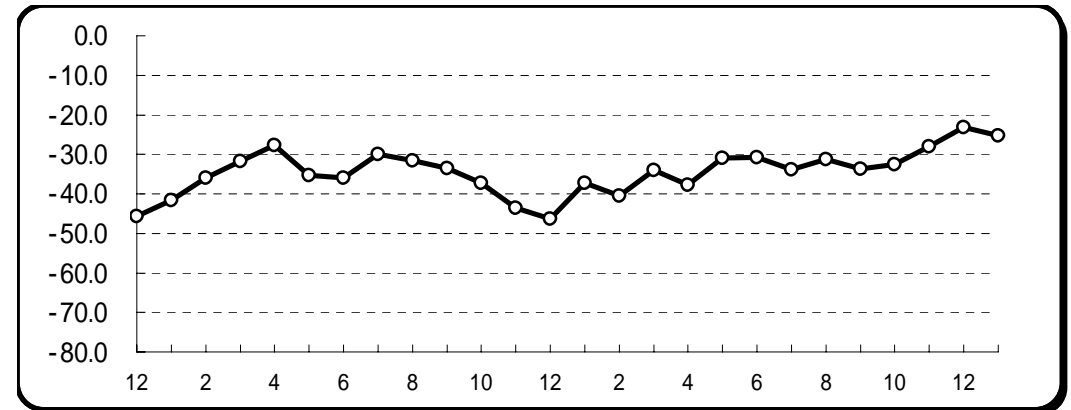
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

